

本島コミュニティ

# 3年ぶりに開催 合同文化祭

## 再開した秋の祭典

新型コロナウイルス感染症が拡大して以降、各地の恒例行事は軒並み中止となってきました。そんな中、瀬戸内国際芸術祭会期中の11月3日に、「塩飽本島合同文化祭」が、本島コミュニティセンターで開催されました。3年ぶりの合同文化祭では、ゲストによる獅子舞や阿波踊りが披露されるなど、島にはコロナ禍以前の活気が戻ってきました。

2018年8月号から連載を開始した「広がるつながるコミュニティ」も今回の本島コミュニティで最後となります。本島コミュニティでは、毎年11月3日の文化の日に合わせて「塩飽本島合同文化祭」を開催しています。今回は、島の人たちから長年愛されてきた島の行事をご紹介します。

## 島の行事に新しい魅力

待ち望む島の行事です。新型コロナウイルス感染症の流行で2年前からバザーや餅つき、島の人による日本舞踊、カラオケ大会などの交流イベントは取りやめましたが、島の大人たちが制作した洋服や芸術作品に加え、小・中学生たちの書道やポスターを展示するなど、規模を縮小しながらも幅広い年代の人たちが楽しんで参加できる祭りとなるように続けました。

人口が減少する一方で、島には移住者が増えてきています。2年前に移住してきたギターリストの山内裕之さんは、フラメンコダンスと共に野外ライブを開催。今年の祭りを大いに盛り上げました。島の伝統や文化を守りながらも、新たな取り組みや交流を取り入れ、魅力を発信し続ける「塩飽本島合同文化祭」。これからも島の人たちに愛される祭典として受け継がれます。

## 誰もが楽しめる催しを

過去には2000人以上の人が暮らしていた本島。しかし、人口減少や少子高齢化が進むにつれ、島民同士の交流も徐々に減ってきました。そこで、「子どもも大人も誰もが集って楽しめる催しをつくりたい」と当時のコミュニティ会長や島の有志らで合同文化祭を企画。今年で25回目を迎え、今ではみんなが



小学生が島の歴史についてまとめた報告作品



鐘の音と共に阿波踊りを楽しむ島の人たち



本島コミュニティ 会長  
富木田 誠さん

今年の合同文化祭は、旧本島中学校を整備して、診療所や本島市民センター、消防屯所などの施設が集約された複合施設で開催しました。過疎化や高齢化が進む中、本島で暮らす誰もが楽しめる場をつくりたいとの思いから企画され、今年で25回目になります。残念ながら、子どもたちの交流イベントは行われませんでした。保育所園児の工作や小・中学生の書道、ポスター作品、交流のある小手島中学校の生徒の作品、大人たちによる手芸作品や絵画、本島の四季を捉えた写真作品などを展示することで、多くの人たちにご協力いただきました。また、瀬戸内国際芸術祭の期間中でもあり、島内外の人たちの参加を通じて、活発な交流の場が生まれました。

これからも皆さんが地域で楽しく、いつまでも暮らすことができる本島を目指し、コミュニティ活動を進めていきたいと思えます。